目　次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 ---------- 1

① 学生の確保の見通し ---------- 1

ア　定員充足の見込み ---------- 1

イ　定員充足の根拠となる調査結果の概要 ---------- 2

ウ　学生納付金の設定の考え方 ---------- 2

② 学生確保に向けた具体的な取組状況 ---------- 3

（２）人材需要の動向等社会の要請 ---------- 3

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 ---------- 3

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠 ---------- 3

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生の確保の見通し

本組織は，大学院人文公共学府博士前期課程及び大学院融合理工学府博士前期課程を連携協力研究科とする研究科等連携課程実施基本組織として，本学に新たに設置する博士前期課程であり，専攻は１専攻とする。また，収容定員は，大学院人文公共学府博士前期課程（入学定員：人文科学専攻 38 名及び公共社会科学専攻 10 名）の内数として５名（人文科学専攻４名及び公共社会科学専攻１名）とする。これらの入学定員を長期的かつ安定的に確保することができることを示すために，本学の在学生に係るアンケート等を実施し，データの分析を行った。

ア　定員充足の見込み

１．本学が実施したアンケートにおいて，本学部への入学を希望する（「入学したい」「とても入学したい」）と回答した３年次（６年制の学部学科については５年次）の本学学生数は 16%（23 名）に上り，本組織の定員を大きく上回っている【資料２】。希望する学生もさまざまな学部に所属しており（国際教養学部４名（うち「とても入学したい」２名），文学部１名，法政経学部２名，工学部 13 名（うち「とても入学したい２名」），園芸学部１名（うち「とても入学したい」１名）,薬学部２名），多様な学生の受入が期待できる。

また，本アンケートにおいて，「新大学院の特色について特に期待するもの」として，「既存の学問領域を越境した，学問分野の混合・融合」（48%），「学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修」（36%）を重視する学生が多数であった【資料２】。これは，本組織が特に他研究科等と異なる独自性を持ち，学内だけでなく，本点を重視する他大学からの受験生を見込むことかできる点である。合わせて、「とても入学したい」と回答した学生のうち、上記に記載した本プログラムの独自性を示す２つの項目を回答した割合は特に高く（「既存の学問領域を越境した，学問分野の混合・融合」（100%）、「学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修」（80%））、強い入学の意思が伺われる。「入学したい」と回答した学生についても、全体の割合よりも高い数値となっており（「既存の学問領域を越境した，学問分野の混合・融合」（62.5%）、「学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修」（50%））、他研究科等ではなく、本プログラムの特色に基づき入学を希望していることがわかる。

学内においても，連携協力研究科等にも所属する教員の元で研究・教育を実施したい学生が，その教育・研究の方向性により，本組織を選択することができ，特に「文理混合による課題解決型教育」や「テーラーメイド教育」という特色を有する国際教養学部の学生においては，以下に述べるとおりそのニーズが高いと想定される。

２．令和２年度においては，本組織の計画・公表時期の遅れにより，入試の実施時期が年度末になること及び他大学等への周知が不足すること等の懸念があるが，令和２年３月に最初の卒業生を輩出することとなる千葉大学国際教養学部における本組織への受験希望者が，他大学院への併願者を含め６名（令和２年 11 月現在）おり，本学部学生以外の受験希望者を一定数加えることにより定員は充足できると考えられる。

イ　定員充足の根拠となる調査結果の概要

ｉ）アンケートの対象等

学生に関するアンケートは，千葉大学に所属する２・３年次学生（６年制課程は４・５年次）に対し，平成 31 年２月に実施した。方法は，学内の学生ポータルシステム（WEB）によるアンケートシステムを活用することとし，学生の所属する学部は限定化せずに実施した。これは，本組織が大学全体の資源を活用したものであり，学問分野が融合的越境的であることから，全学部学生を受入対象と想定しているからである。また，アンケート時は新大学院の設置を想定していたが，本組織の趣旨，概要及び教育内容等とはほぼ相違無いものである。なお，当該アンケートの実施に当たっては，本組織の概要を示し，アンケート【資料１】に回答していただくという形で行った。合わせて，本アンケート実施前（平成 31 年１月）に，本組織に興味がある学生に対し，説明会を開催し，５６名の出席があった（説明に使用したパワーポイントは【資料３】のとおり（学生には非配布））。

ⅱ）アンケート結果の概要

当該アンケートの結果，287 件の回答があった。詳しい内容は別紙【資料２】のとおりであるが，主な項目としては以下のとおりである。

・「大学院を選ぶ基準として特に重視している点」については，「研究分野」（61%）とする学生が圧倒的多数となり，研究の分野・内容等に多いに関心があることが伺われた。

・「新大学院の特色について特に期待するもの」については，既存の学問領域を超越した，学問分野の混合・融合」（48%），「学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修」（36%），「英語によるコミュニケーション能力が身に付く教育」（18%），「グループワークや少人数による主体的協働学修を重視した教育」（17%）となった。

ウ　学生納付金の設定の考え方

学生納付金は，国立大学等の授業料その他の費用に関する省令に基づき，本学が定める国立大学法人千葉大学における授業料その他の費用に関する規程に基づき設定する。なお，令和２年度より，全学的に授業料を 20%値上げし，年額 642,960 円と設定する。

②　学生確保に向けた具体的な取組状況

本組織は，学生確保に向け，養成する人材像や当該人材を育成するための特徴的なカリキュラム等を紹介すべく，ホームページを開設するほか，パンフレットを作成し，学内外に配布する。また，本学が大学院進学・入学説明会を複数回主催し，積極的に広報するとともに，本組織の魅力を積極的にアピールする。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本組織は，グローバル社会が直面する課題を実践的に解決するための課題化的認識力を備え，課題を発見し，その解決のために諸科学を深く学び，リーダーシップを発揮しつつ課題解決を実践し，その解決方法を発信できる能力を有する文理横断的・異文化融合的な地を備えた課題解決志向の人材を養成することを目的とする。

当該人材を育成するため，人文社会科学，自然科学，生命科学の諸領域を融合させるとともに，学生自身が独自に学際的な研究テーマを設定するとともに，体系的な教育プログラムを実施する。

②　上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

本組織で養成する人材が，実際に社会的な人材需要に即したものであるかを調査するため，平成 31 年２月に，千葉大学主催の「仕事発見フォーラム」参加企業に対して，WEB によるシステムを活用しアンケートを実施した。また，アンケート時は新大学院の設置を想定していたが，本組織の趣旨，概要及び教育内容等とはほぼ相違無いものである。なお，当該アンケートの実施に当たっては，本組織の概要を示し，アンケート【資料４】に回答していただくという形で行った。

当該アンケート調査の結果，123 社から回答があった（詳しい内容は別紙【資料５】のとおり）。当該企業からは，「採用にあたり，学生に求める能力のうち特に重視するもの」として，「主体性」（63%），「コミュニケーション能力」（60%），「チームワーク・協調性」（48%），「課題設定・課題解決能力」（36%）が上位に選択されている。これは，「本課程の特色として特に期待するもの」として高い期待が寄せられている「学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修」（73%），「既存の学問分野を越境した、学問分野の混合・融合教育」（54%），「グループワークや少人数による学生の主体的協働学修を重視した教育」（48%）等の体系的なカリキュラムにより育成されるものである。

また、本組織の修了生を採用したいと回答した企業は、105 社（85%）に上り，企業は本学部が育成する人材に対して非常に高い関心を持っていることがわかった。

以上のことから，本学部が育成する人材は，企業の多くが求めている人材と一致しており，当該人材に対する社会的需要は高いと言うことができる。

資 料 目 次

資料１　大学生アンケート ---------- 1

資料２　大学生アンケート結果 ---------- 3

資料３　大学院説明会資料 ---------- 7

資料４　企業アンケート ---------- 11

資料５　企業アンケート結果 ---------- 15

資料６　企業からのご意見 ---------- 17

総合国際学府(仮称)大学生アンケート

千葉大学では、社会の各方面・各分野から必要とされる、自ら課題を発見・解決し、その解決策を世界へ発信することのできるグローバル人材を育成するため、総合大学である特色を活かした、新しい理念にもとづく新たな大学院（博士前期課程）を設置（西千葉キャンパスに設置予定）したいと考えています。この新しい大学院（博士前期課程）は次のような特徴をもちます。

1. あらかじめ定まった学問分野から出発するのではなく、移民・難民問題、科学技術と社会との関係、環境問題など、グローバルで多様な課題の解決を目指す実践的な学修
2. 教師から研究課題を与えられるのではなく、学生が主体的に研究課題を探究するセルフ・デザインド・メジャー（自己設計専攻）という新しい学修スタイル
3. 総合大学としての千葉大学が強みを持つ先端研究を組み合わせ、課題解決に活用

このような千葉大学新大学院構想の実現に向け、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

次の設問について、該当する選択肢に☑を誤記入ください。

問１　性別

□男　□女

問２　所属学部

□国際教養学部　□文学部　□法政経学部（法経学部）　□教育学部　□理学部
□工学部　□園芸学部　□医学部　□薬学部　□看護学部

問３　学年

□２年次　□３年次

問４　進路希望（複数回答可）

□千葉大学の大学院進学　□他大学の大学院進学（海外を含む）　□公務員　□教員
□国内企業への就職　□海外企業への就職　□その他（　　）

問５　進学を希望する大学院の所在地

□居住地から通学可能な地域　□所在地はこだわらない　□海外
□大学院進学を希望しない

問６　大学院を選ぶ基準として特に重視している点（３つ以内）

□大学・大学院の知名度　□大学院の所在地　□研究分野

□入試科目　□学生サポート体制　□海外留学制度の有無　□授業料

□取得可能な資格・免許　□卒業後の進路　□キャリア教育や就職支援の充実

□その他（　　）　□大学院進学を希望しない

問７　以下の新大学院の特色について、特に期待するもの（３つ以内）

□既存の学問領域を越境した、学問分野の混合・融合教育

□学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修

□グループワークや少人数による学生の主体的協働学修を重視した教育

□英語によるコミュニケーション能力が身に付く教育

□海外留学を組み込んだ教育

□海外フィールドワークやインターンシップ（学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度）を取り入れた教育

□大学院進学を希望しない

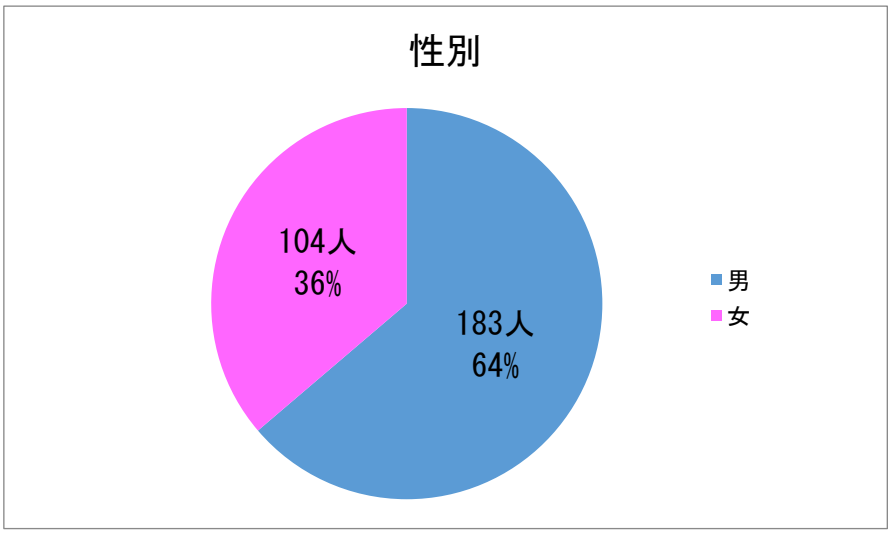
問８　新しい構想の大学院が設置された場合、入学したいと思いますか

□とても入学したい　□入学したい　□入学したいとは思わない　□わからない

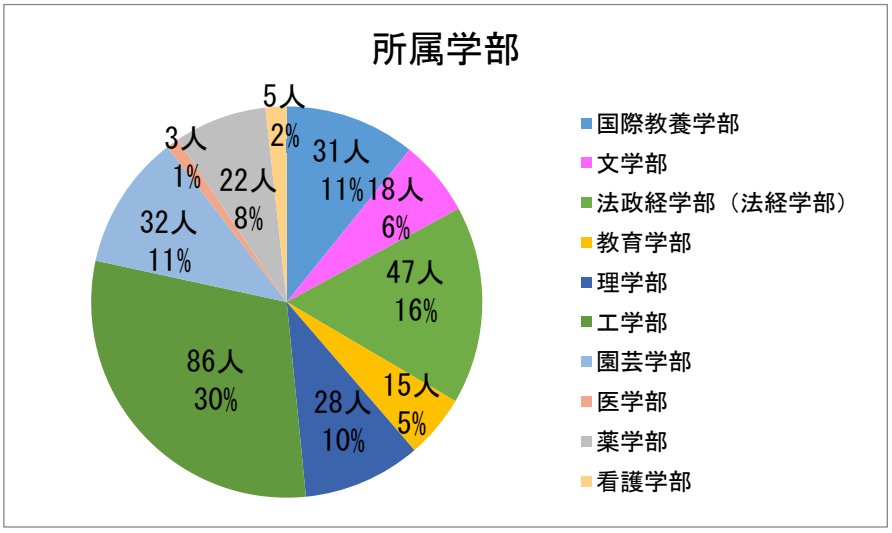
千葉大学生へのアンケート結果

アンケート対象学生　：千葉大学全学部の３年次及び２年次（６年制学部については５年次及び６年次）　4942名
アンケート有効回答数：287名
アンケート実施期間　：平成31年２月21日～平成31年３月４日
アンケート実施方法　：学生ポータル（Web）によるアンケート機能を利用

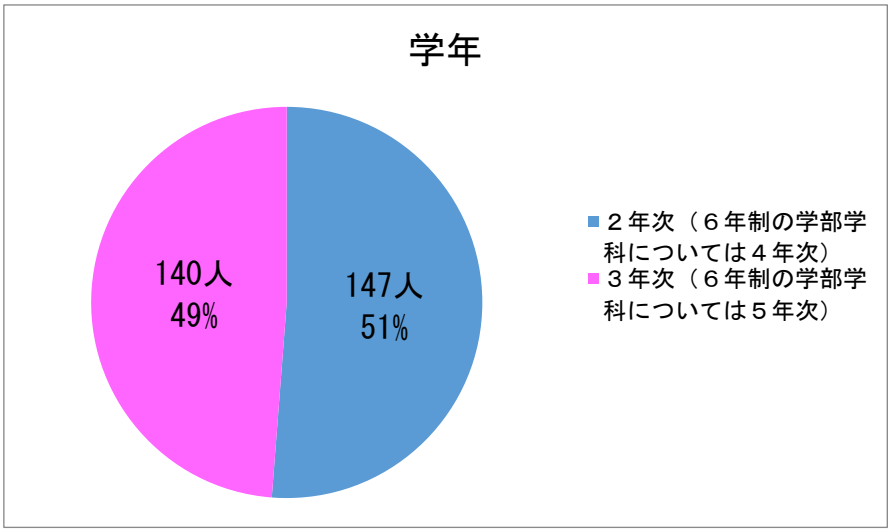
問１　性別



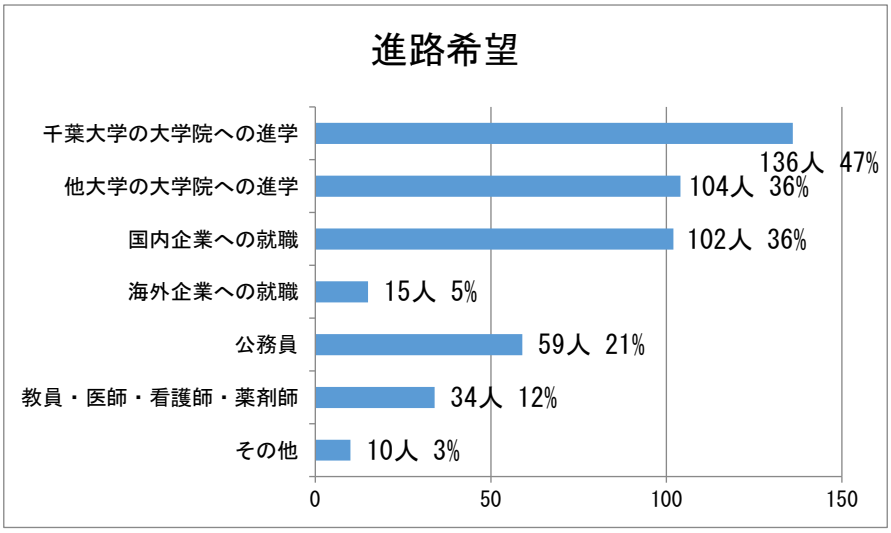
問２　所属学部



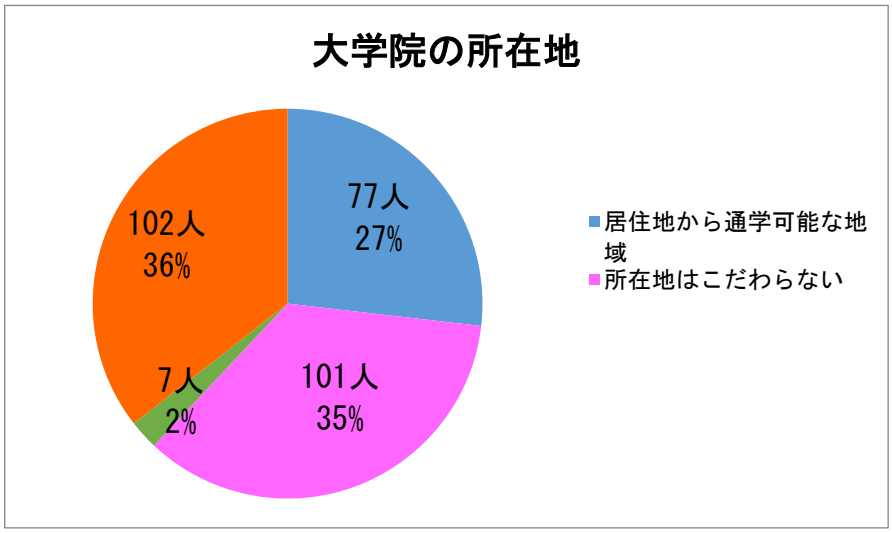
問３　学年



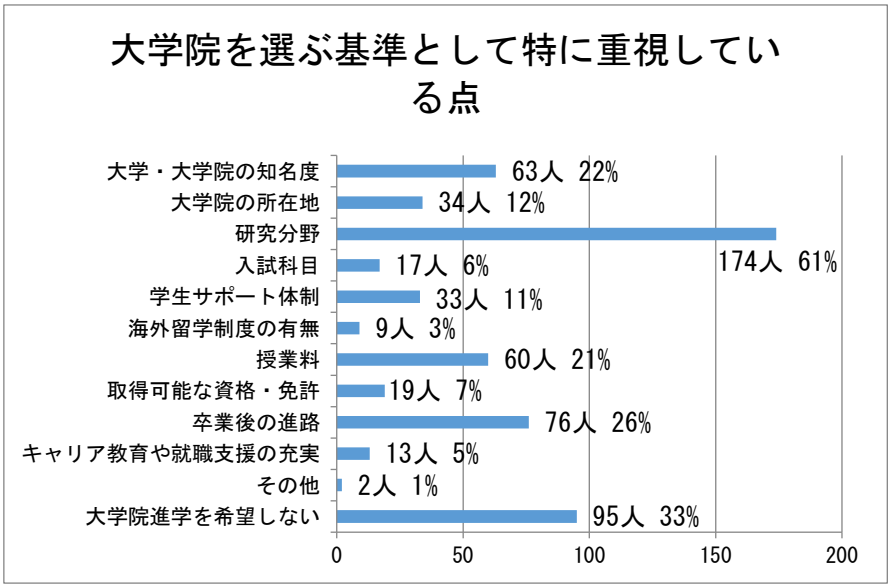
問４　進路希望（複数回答可）



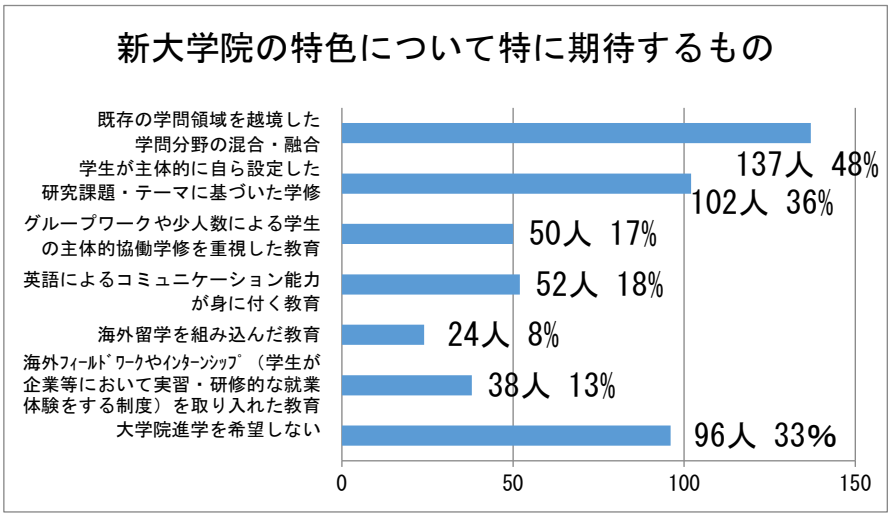
問５　進学を希望する大学院の所在地



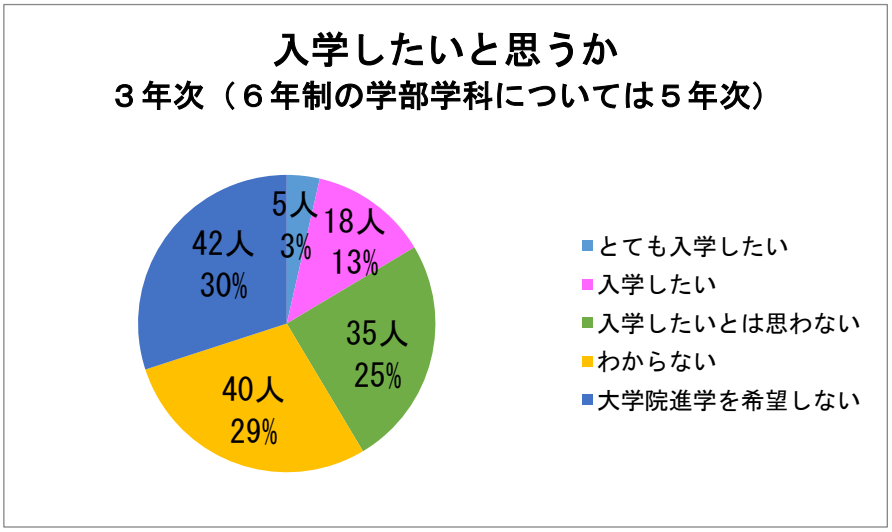
問６　大学院を選ぶ基準として特に重視している点（３つ以内）

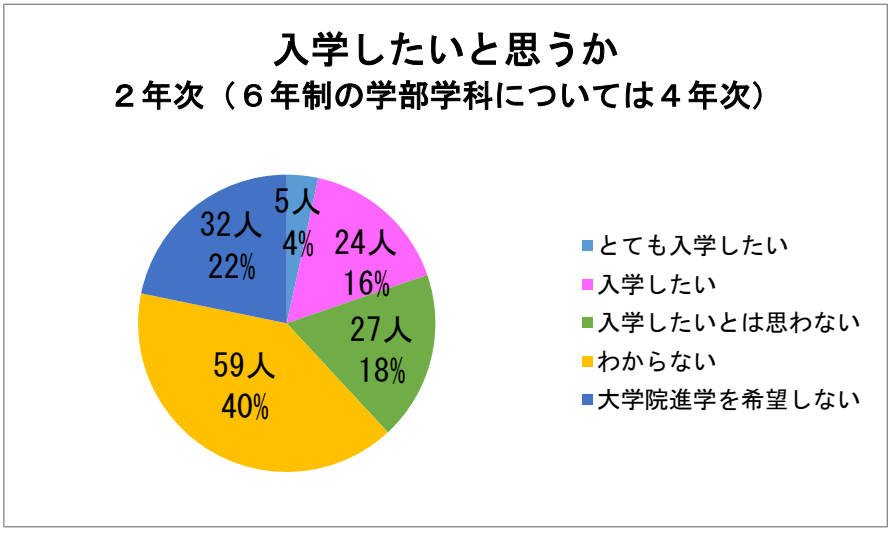


問７　新大学院の特色について特に期待するもの（３つ以内）



問８　新しい構想の大学院が設置された場合，入学したいと思うか





千葉大学 新大学院 構想（案）

2019年1月7日

1

社会的背景

持続可能社会への転換
新時代のエネルギー・システム
環境開発と貧困問題

生命科学の進展
ゲノム編集と倫理／
バイオ農業

高度情報化
AI/IoT/超スマート社会

「社会システム」や「知識」の在り方の再構築の必要性

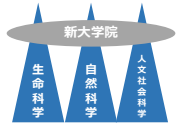
大学に期待される新しい知性・人材像

- 国境、特定の知識、領域をこえてテクノロジーが展開する新たな社会のなかで高度な問題解決能力を持った人材
- 大学に社会・産業イノベーションへの貢献が要請されるなか、社会課題と学術知を結びつける能力を持った人材

2

千葉大学に新設する意味

- 人文社会科学・自然科学・生命科学の研究領域を融合した新たな**問題解決型知識創成**のための教育研究組織を形成
- 研究三峰（トリプル ピーク チャレンジ）を推進し、**全学の専門領域の貢献**により研究成果を応用
- 教員組織（研究院）と教育組織（学府）の分離に基づいた組織を通じ、**大学全体の知力**による人材育成
- 国際教養学部の文理混合の基盤の完成により、**課題解決志向**の人材を育成



国際教養学部：国際＋日本＋科学の混合（ブレンド）により、学生の俯瞰力＋発見力＋実践力を育成することを目的に編成されており、グローバルスタディーズ、現代日本学及び総合科学の三つのメジャーをもつ。
総合国際学府：各学問領域の研究成果を社会課題に応用する教育研究を行う。

3

千葉大学に新設する意味

- 国内外の協定・連携機関の積極活用
- SGU・COC/COC+など資産活用
- **COIL（Collaborative Online International Learning）型教育**による米国等の大学院との連携

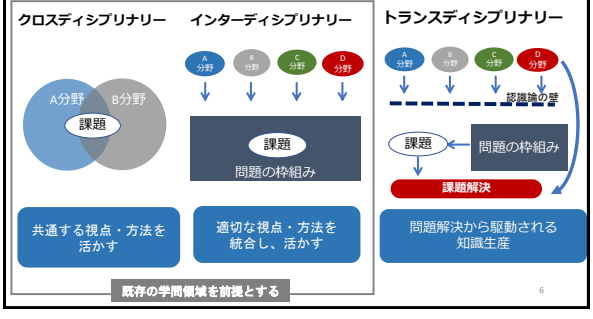
4

新大学院の基本構想

- 名称：大学院総合国際学府
  Graduate School of Global and Transdisciplinary Studies
- 学位：修士（学術）・博士（学術）
- 組織：１学府 １専攻　博士前期課程/博士後期課程の区分制
- 入学定員：博士前期20名、博士後期10名
- 特徴
  - 全学で設置する**独立学府**
  - 課題解決力のある人材育成を目的とし、**トランスディシプリナリー**を基盤とする学際領域
    （＝既存の学問領域を超えた問題解決から駆動される知識生産）
  - 大括り化した研究テーマを学修しつつ、学生自らが**セルフデザイン**で独自の研究計画を立案
    （＝学生自身による課題設定と広範囲な選択幅の設定）
  - 時間・空間・学問領域の制約を超えた新たな創造の場を**スマートラーニング**により形成

5

トランスディシプリナリーの意義

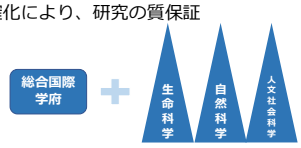


6

セルフデザインの意義

- 学生自身による「研究課題設定」を前提に、「広範囲な選択幅」を提供することで、課題解決に向けて**自分自身が学修内容を形成**していく
- 自分だけの力で課題探求を進めるのではなく、学生同士・様々な分野の教員という、**協働する他者との議論のなかで自分自身の課題探求**を深めていく
- 研究課題設定審査手順の明確化により、研究の質保証

協働する他者との議論



広範囲な選択幅

7

新大学院のコンセプト

- グローバルな社会変化の中で先端知識をもとに新たな社会を構築する人材
- 未来の雇用（仕事）を創造することができる人材

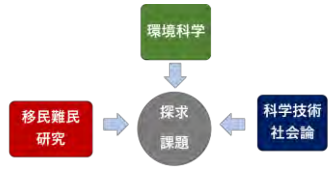
育成する人材像

- グローバル／リージョナル／ナショナル／ローカルな社会課題に対して、特定の学問領域に限定されず、幅広い知識を活用することで、**国際通用性のある解決能力・行動能力をもつ人材**
- 新しい技術を安心と安全を担保しながら、社会に対して還元する責任ある**研究・イノベーション（Responsible Research Innovation： RII)を推進する人材**
- 知を社会に実装することを主導する**社会起業家**
- **"Society 5.0"**における新たな社会を構想・編集し、価値を創造する人材
- 未来の雇用（仕事）を創造することができる人材

9

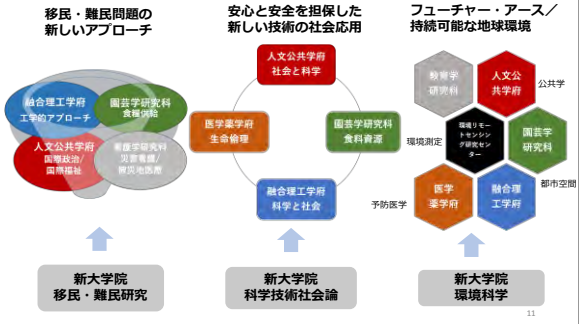
教育研究の特徴

- 千葉大学が強みを持つ**先端研究**を課題解決に活用
- 新たな研究指導組織と**セルフデザイン**による課題探求軸の柔軟な変化
- **トランスディシプリナリー**と**セルフデザイン**をコースワーク型教育プログラムで実現するための３つの学際的テーマの重点化（これらの課題探求の主テーマは固定的でなく社会課題にあわせて柔軟に変化させていく）



10

セルフデザインによる課題探求例



11

教育・研究体制

教員組織

- 全学出動体制による授業科目の提供
- 学際的研究をすすめている既存教員の学内クロスアポイントメントによる研究指導体制
  - 国際問題
  - 移民・難民問題
  - 環境問題
  - 科学技術社会論

新たな教員の必要性

- 技術応用・実践の実務家（社会的起業家）
- 科学技術社会論ないし情報社会論
- デジタルヒューマニティーズ
- 新たな認知論・社会倫理学・生命倫理
- ロボット人類学のような境界知の専門家

12

教育・研究体制

- 履修支援に加え、研究支援を担うAdvanced SULAを配置
- Project Based Researchを支援するためにTF(Teaching Fellow)を活用
- 指導教員チーム、Advanced SULA、TFで情報を共有するために、スマートラーニングを活用し、リサーチ・ポートフォリオをオンライン化
- 国内・海外協定機関の専門知識を積極活用

13

博士前期課程：教育課程の構成（５科目群）

①研究基盤科目群（4単位）

- 課題を学際的に探求するための高度な研究遂行能力と高い倫理意識を育てるコースワーク

②学際認識科目群（6単位）

- 既存ディシプリンを超えた**トランスディシプリナリー**を実現するための学際的視点を修得し、自分自身の研究に活用するコースワーク

③実践・演習科目群（4単位）

- 他分野との共同研究や具体的な現地実践。グループ研究（Project Based Research)の必修化

14

博士前期課程：教育課程の構成（５科目群）

④課題探求科目群（8単位）

- 探求する社会課題・研究課題の内容について、自分自身で必要な知識を選択し、自ら組み立てる
- 総合大学の学問領域を活かし、他学府・研究科専門科目を組み合わせた**セルフデザイン**

⑤研究指導・修士論文（8単位）

- 「研究計画指導」を通じて、セルフデザインを形成
- 個人の指導教員ではなく、複数の教員からなるチームが関わることで、特定のディシプリンに限定しない仕組みにする。教育・研究の質保証のために、指導体制と評価体制は独立させる

15

環境科学を選択する学生の例

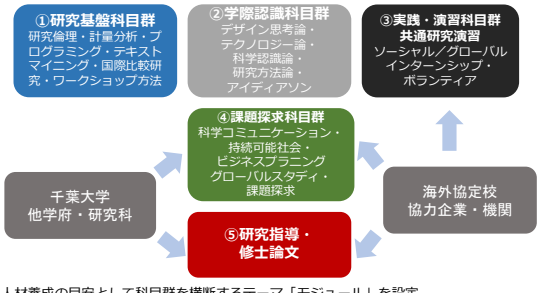
研究課題：持続的な国際化社会のための新しい環境デザイン
多様で学際的な視点から独自の環境デザインの価値を創造する
総合国際学府の履修科目（研究倫理、研究方法論、持続可能社会など）に加え、テーマに応じて他学府・研究科の科目を履修

融合理工学府：都市計画や空間デザイン
環境リモートセンシング研究センター：環境の評価
園芸学研究科：ランドスケープデザイン、最新の緑化技術
人文公共学府：コミュニティデザイン、歴史や多様な文化
教育学研究科：環境教育イベント企画
医学研究科：予防医学を取り入れた環境デザイン
産学官による実践的なプロジェクト

進路：国際的に活躍する環境デザインの起業家、環境デザインのコンサルタント、環境のイベントを企画するサイエンスコミュニケーター、都市計画・まちづくり事業（行政・民間）

16

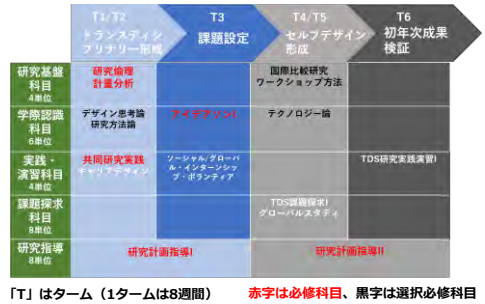
博士前期課程：教育課程の基本枠組みと授業例



人材養成の目安として科目群を横断するテーマ「モジュール」を設定
例）アントレプレナーモジュール／国際貢献・活動モジュール／産業イノベーションモジュール

17

博士前期課程１年次：学習プロセスのイメージ



「T」はターム（1タームは8週間）　赤字は必修科目、黒字は選択必修科目

18

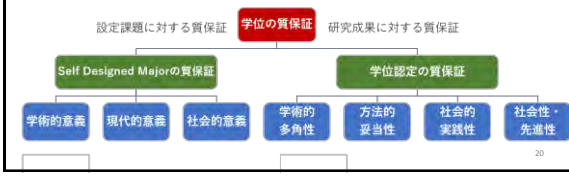
博士前期課程２年次：学習プロセスのイメージ

「T」はターム（1タームは8週間）　赤字は必修科目、黒字は選択必修科目

19

学位の質保証と厳格な論文審査

- 学位の質保証：2つの質保証
  - Self Designed Majorとしての質保証：３つの観点
  - 学位認定の質保証：４つの観点
- 厳格な論文審査体制：学内複数学府・研究科教員による全学的論文審査
  - 主審査教員は、指導担当教員以外の本学府専任教員（指導教員は審査に加わらない）
  - 副審査教員は、学内の他の学府・研究科の教員（複数）
  - 審査会の原則公開による透明性の確保



20

博士前期課程修了後の進路

- 社会課題を解決するために政策立案をリードする上級オフィサー（行政管理職）
  専門職としての国際公務員・政府機関職員（修士以上の学位が必須）
- 社会課題を解決するための実践者
  知を社会に実装することを主導する社会起業家（チェンジメーカー、ソーシャルベンチャー）／コンサルタント／NGO・NPO職員／イノベーションをリードする企業人
- 先端の専門知識・課題解決を普及するコミュニケーター
  サイエンスコミュニケーター／ソーシャルコミュニケーター／サイエンスライター

21

博士後期課程の構想

- 千葉大学が強みを持つ**先端研究**を課題解決に活用
- 新たな研究指導組織と**セルフデザイン**による課題探求軸の柔軟な変化
- ディシプリンを融合して、革新的な課題解決能力を持つ卓越した博士人材・研究者を育成

22

博士後期課程の基本枠組

- ディシプリンを融合するためのコースワーク（課題探求科目）と先端課題の研究開発のためのリサーチワーク（研究指導）の組み合わせ：修了要件 16単位
- キャップストーンとして「国際査読論文」を要件化

23

博士後期課程修了後の進路

- 大学・研究機関・民間企業・公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材
- 新領域の研究課題を創出し解決する研究者

24

千葉大学総合国際学府（仮称）企業アンケート

千葉大学では、グローバル人材の育成や、既存の学問分野をこえて問題解決から駆動される知識生産をめざす大学院というコンセプトにもとづき、新たな大学院（博士前期課程）の設置を計画しています。この大学院（博士前期課程）は、次のような特徴をもちます。

1. あらかじめ定まった学問分野から出発するのではなく、移民・難民問題、科学技術と社会との関係、環境問題など、グローバルで多様な課題の解決を目指す実践的な学修
2. 教師から研究課題を与えられるのではなく、学生が主体的に研究課題を探究するセルフ・デザインド・メジャー（自己設計専攻）という新しい学修スタイル
3. 総合大学としての千葉大学が強みを持つ先端研究を組み合わせ、課題解決に活用

そして、次のような能力を有する大学院生を育成いたします。

≪新大学院（博士前期課程）が育成する能力案≫

「自由・自立の精神」

・人文社会科学、自然科学、生命科学の諸領域を越境し、自己が主体的に選択・設計した学問の専門的な内容を学ぶことを通じて、自由と自立の精神を実践的に発揮し、自らの研究活動においても、倫理的で主体的な行動をとることができる。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

・自ら設計した専門知識に基づき、グローバル時代における多様な政治・経済・文化のあり方、価値観や社会の多様性、自然、環境の重要性を理解しつつ、地球規模の視点から持続的な社会の形成に参画することができる。

「専門的な知識・技術・技能」

・専門分野における深い学識を獲得すると同時に、学際的で地球規模の幅広い視野に立った観点と、現実社会において生起する諸課題の解決に向けた実践的な思考に基づき、イノベーションの創出に貢献することができる。

「高い問題解決能力」

・高度な専門的知識・技術を要する課題を、関連する分野の知識・能力を統合・整理し、先導的に他者と協調・協働することにより、解決できる。

このような千葉大学新大学院構想の実現に向け、以下のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

※ 以下の新大学院「総合国際学府（仮称）」の特色について、特に期待するものをお選びください。　（3 個まで）

□既存の学問領域を越境した、学問分野の混合・融合教育
□学生が主体的に自ら設計した研究課題・テーマに基づいた学修
□グループワークや少人数による学生の主体的協働学修を重視した教育
□英語によるコミュニケーション能力が身に付く教育
□海外留学を組み込んだ教育
□海外フィールドワークやインターンシップ（学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度）を取り入れた教育

※採用にあたり、学生に求める能力で、重視する項目をお選びください。（３個まで）

□主体性　□実行力　□コミュニケーション能力　□チームワーク・協調性
□課題設定・課題解決能力　□社会性　□創造力　□論理的思考力　□語学力
□専門分野の高度な知識　□一般教養　□その他（具体的に）

※ 新大学院「総合国際学府（仮称）」が設置された場合、当該大学院の卒業生の採用についてどうお考えですか？　（1 個まで）

□積極的に採用したい　□採用したい　□採用したいとは思わない　□分からない

新大学院「総合国際学府（仮称）」について、ご意見等がありましたらお聞かせください。（200 文字以内）

※ 貴社名　（30 文字以内）

※ 部署名　（30 文字以内）

※氏名

※電子メール

※ 貴社の主要な業種をお選びください。　（1 個まで）
□農林漁業　□鉱業　□建設業　□製造業　□電気・ガス・熱供給・水道業　□情報通信業　□運輸業　□卸売業・小売業　□金融業・保険業　□不動産業・物品賃貸業　□宿泊業・飲食サービス業　□教育・学習支援事業　□医療・福祉業　□サービス業　□その他

上記でその他を選択された場合、業種名をご入力ください。　（20 文字以内）

※ 貴社の所在地をお選びください。　（1 個まで）

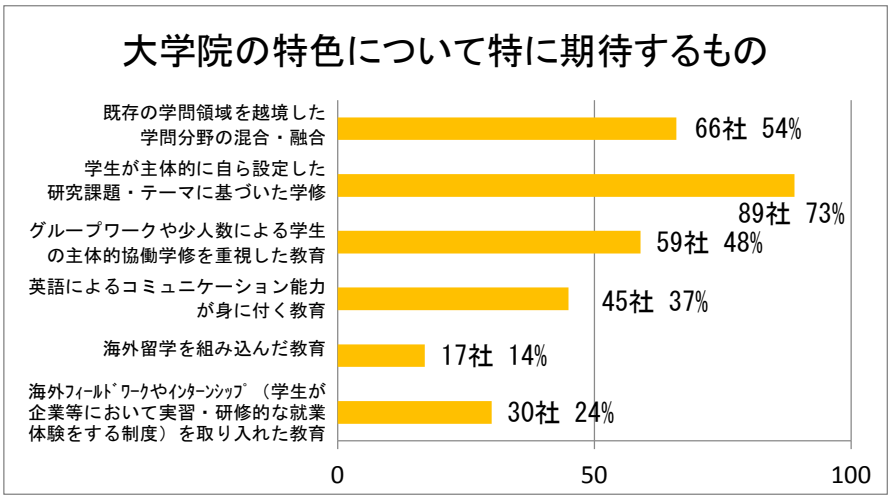
□千葉県　□北海道　□東北　□関東甲信越（千葉県以外）　□中部　□近畿　□中国　□四国　□九州・沖縄　□海外

資料５

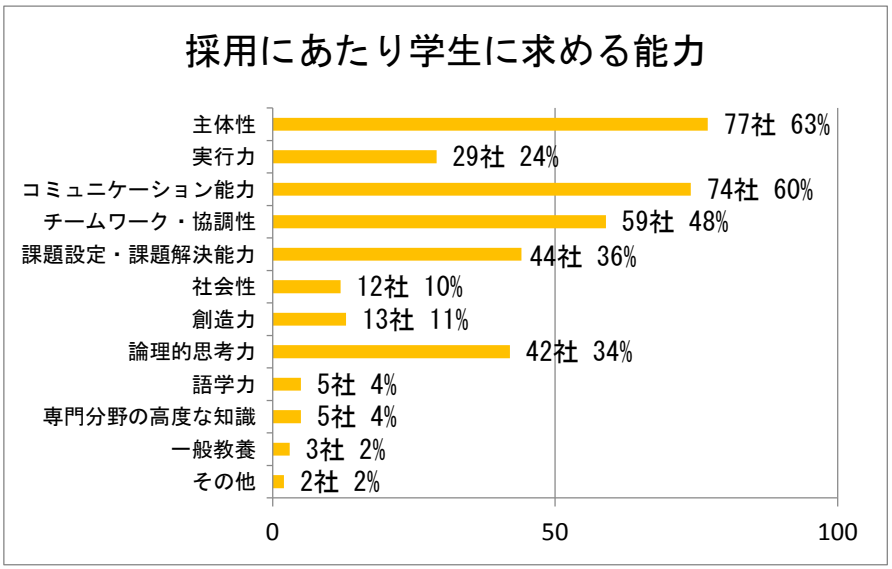
企業へのアンケート結果

アンケート対象企業　：千葉大学主催「仕事発見フォーラム」に参加予定の企業　300社
アンケート有効回答数：123社
アンケート実施期間　：平成31年２月14日～平成31年２月25日
アンケート実施方法　：インターネット上のアンケートフォームにて回答

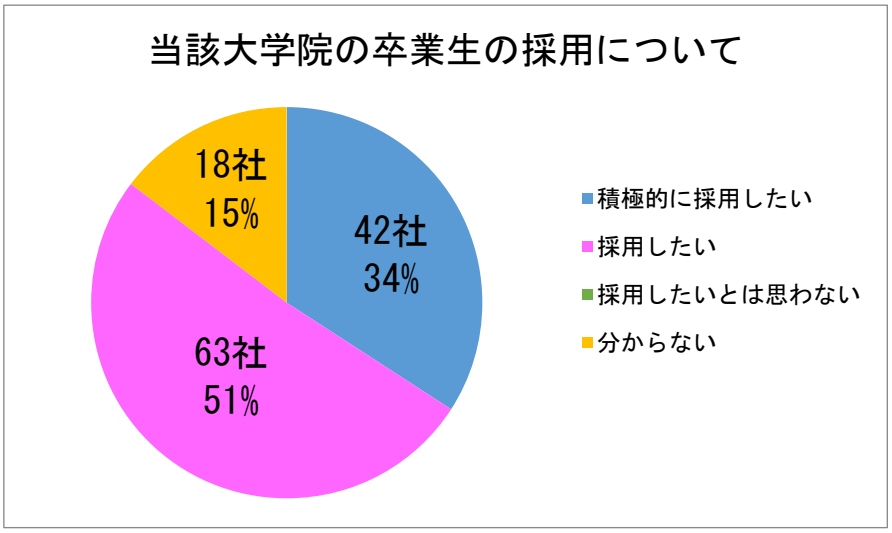
問１　大学院の特色について，特に期待するもの（３つまで）



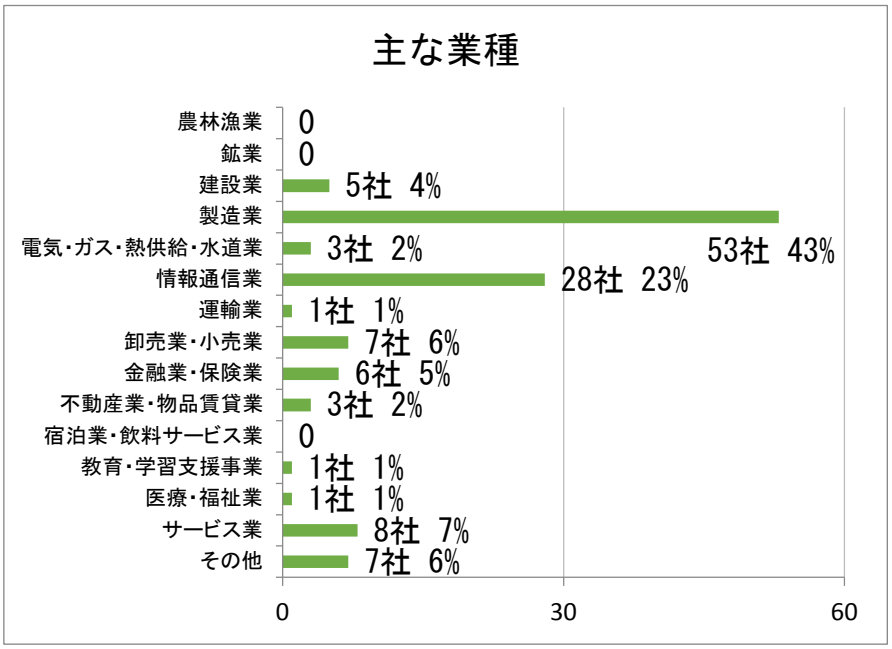
問２　採用にあたり，学生に求める能力で，重視する項目（３つまで）



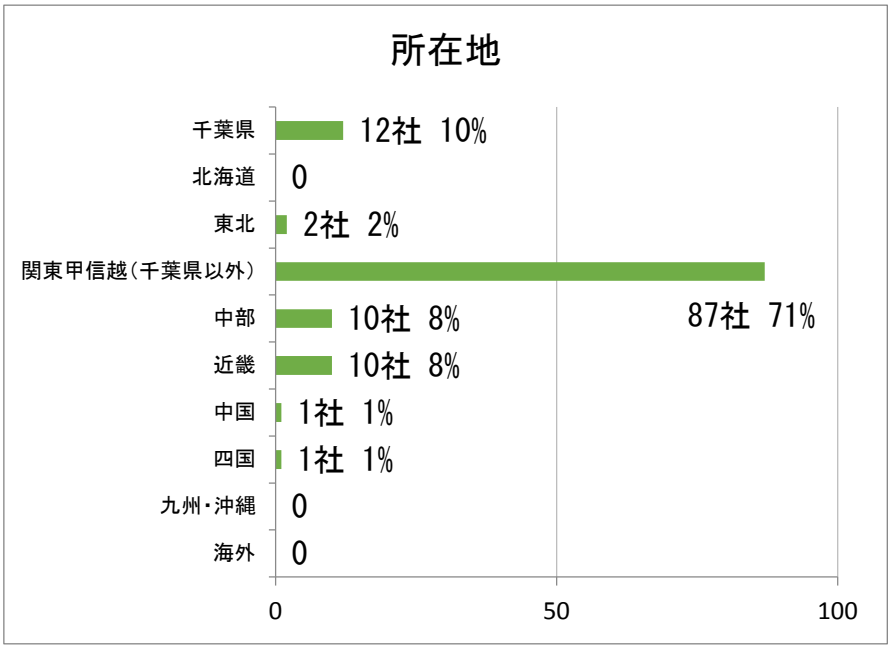
問３ 新大学院が設置された場合，当該大学院の卒業生の採用について



【回答者区分・主な業種】



【回答者区分・所在地】



アンケートによる企業からのご意見

【セルフデザイン・問題解決型学修関係】

○ICT の事業分野においては，ICT を活用した異業種コラボレーションによる新たなビジネス創出が求められている。その点において，既存の学問分野をこえて問題解決から駆動される知識生産をめざす大学院というコンセプトは大変重要だと感じている。

○専門的な知識よりも，そのプロセスや考え方を重視していただくとよい。

○高度な知識を基に自ら課題を見つけ，解決のために他者とも協力し，主体的に行動できる人材の育成・輩出を期待する。

○学生が主体的に研究課題を探究するセルフ・デザインド・メジャー(自己設計専攻)という新しい学修スタイルといったスタイルに非常に興味をもった。

○社会課題を解決する企業を目指しているので，「グローバルな課題解決を目指す実践的な学修」という特徴に共感した。上記の特徴に加えて，総合大学としての先端研究の実績もふまえた学生というのは，採用する側としてとても魅力的に感じている。

【グローバル関係】

○グローバルなビジネス展開をしているため，語学力，コミュニケーション力のある学生をぜひ育ててほしい。

○学生時代の自由な時間で海外経験はすべきだと考えている。国内でどれだけ勉強の工夫を行えども，１つ大きな海外経験をさせるほうが身につくこと・気づくことが多いため，それらのプログラムを期待する。

○語学ができるだけではなく，海外に出てグローバルに活躍したい，というマインドをもった学生を輩出してほしい。

【その他】

○広い視野で持続的な社会について学んだ人にこそ，地方にＵＩＪターンし活躍して欲しい。

○デジタル社会への問題点について追求する事もお願いする。

○「能力案」に対する期待・共感は非常に高い。いわゆる学校的な学びではなく，自らやってみる・失敗から学ぶ，チャレンジの機会を与える・・という場になってほしい。社会人として即戦力となりえ，採用側としても魅力となるので，是非，MBA とは一線を隔す内容を期待したい。

○外国籍人材または多様化を意識して行動が出来る人材の採用を強く望んでおり新大学院の学生には期待する。

○いろいろなことに挑戦して頂きたい。

○希望者が異文化対応，想像力，チャレンジ力，自主性等を身に付けるためアドベンチャースクールと呼ぶ入社前研修を実施しているが，通じるものがあると考える。

○なんらかの専門分野も持つことができるとさらに良い。

○大学院に相当する高度な学びと，学生の主体的な行動の両立を図れるような学府について，大変期待している。